（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170102087		
法人名	有限会社ひよこ		
事業所名	グループホーム「コケコッコー」		
所在地	岐阜市鏡島南1丁目11－7		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果市町村受理日	平成22年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102087&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒503-0864　岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1　モナーク安井307
訪問調査日	平成22年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

わが事業所では利用者の個々の感性や力を発揮出来るよう、職員も共に生活を楽しみ、お互いを必要とした家族のような関係作りに力を入れている。職員ほぼ全員が利用者の心身の状態、変化を敏感に早期に発見する能力と、それを全スタッフに早期に周知出来るシステムが出来あがっていて、心身の変化や問題を素早く解決するため介護福祉士・介護支援専門員・看護師など全スタッフの知識と経験を基に利用者が生きがいのある生活ができるよう全員で努力をしている。 認知症ケアについては、その人らしい個性を伸ばし、安心した暮らしが出来るよう全職員が同じ知識を共有し支援をしている。地域へのアピールとして、地域の子供会とのつながりを持ち、夏休みや冬休みには一緒に遊んだりする催しを行ったり、地域に開かれた認知症介護相談の受け入れも推進している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

住宅改修型のグループホームである。利用者が安全に安心して暮らせるよう細部にわたり改修が施されており、さらに家庭的な佇まいとなるよう、家具、小物、飾りつけなど、職員の配慮工夫が随所に見られる。また町内会行事への参加や“たより”を回覧板で廻してもらうなど、地域にむけた発信、働きかけを積極的に行っている。運営推進会議においても地域を代表するメンバーが多く、事業所を理解し支援してもらうよい機会と捉え力を入れている。この事業所ではすべての情報を職員間で共有するシステムが整備されており、運営やケアに関する書類についても万全に管理されている。利用者一人ひとりの「その人らしい暮らし」を支えるため、管理者をはじめ全職員が熱意を持ってケアに当たっており、利用者の穏やかな表情、そして職員の笑顔が印象に残るホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングにて理念の読み合わせをし、職員全体で共有し実践に繋げる事の出来るよう努力している。	開設当初の理念を全職員で見直し、「その人を知り“その人らしい暮らし”を共に楽しみたい」を掲げ、全職員で共有している。管理者はミーティングの場だけでなく現場においても、理念を具体的なケアにつなげて話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の人と挨拶を交わし、特に子供達は笑顔を見せてくれている。 地域の子供会との交流や近所の子達が遊びに来てくれるものの、機会はまだ少ない。	町内会に加入し、草むしりなどの地域活動に参加したり回覧板に“たより”を入れてもらうなど、積極的に接点を持つよう努めている。また近所の方から畑の野菜を差し入れてもらう機会も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に開かれた介護事業所として毎月14・15日を「ひよこの日」として認知症高齢者介護相談等の受入を推進している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に運営推進会議を開催し、質疑応答要望等の意見を出来る限り実行している。例として、緊急時には地域の方の協力を得るために広報するとよいとの意見。その後、ホーム便りにて呼び掛けをしている。	市介護保険室、地域包括支援センター、自治会長、老人会、婦人会、民生委員、家族等の参加により開催している。毎回活動状況報告を行うとともに、外部評価の結果報告や消防訓練などを取り入れ、意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課や生活福祉課の担当者と連絡を取り合い、家族の意向等もサービスに取り込んでいけるよう、入居者の生活の質の向上に向けて協力しあっている。	市担当者が運営推進会議に毎回出席しており、事業所の現状については理解してもらっている。さらに措置入所や生活保護を受けている利用者の対応については、積極的に連携を図り、共に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新職員にも理解してもらう為に、ミーティング内に定期的に時間を設け具体的に説明し、身体拘束のないケアの取り組みに努めている。	玄関の施錠を含めて身体拘束は行わない方針をとっており、全職員で共有し実践している。点滴時の抑制など命に関わるようなやむを得ない場合には、家族に書面で了解を取り実施することとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様ミーティング内に具体的に説明し、理解浸透を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用されている入居者に関して、全職員が把握できるようミーティング内で説明し、活用の支援が出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には利用者・家族が納得されるまで、職員数名にて丁寧に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その時々の入所者の不安等を全職員が共有し、思いを引き出せるようなコミュニケーションを図っている。	利用者一人ひとりについて日頃の様子を毎月家族に報告しており、家族の訪問時や電話で話す機会などに意見や要望を聞くように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員が意見を言い易い環境作りの為に、普段からのコミュニケーションを心掛けている。	服薬チェックの回数を増やす、夜勤者からの申し送りの体制を整える、食卓の席替えなど、現場職員からの提案を聴き、全職員で話し合いながら運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人一人の個性を尊重し、現場で活かせるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度事業計画の中に事業所内研修を取り入れ又、個々にも必要または適した研修を受講する機会を確保している。受講後は他職員に周知出来るようミーティングにおいて発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や同業者の会などに所属し、勉強会、セミナーなど積極的に参加、交流の機会を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身の状態を把握し、思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や不安な思い、入居に至るまでの経緯を聞く機会を設けるよう努めている。入所後はホーム内での様子を伝え、家族の要望等に沿えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況やそれまでの生き様など家族や本人の要望など理解しえるよう本人の周りの多くの関係者と十分な話し合いを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。また、本人の苦しみや不安、喜びを知り、共に支えあえる関係作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者の様子や職員の思いを伝える事で、本人を支える為の協力関係が築けるよう努力している。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と家族の思いが結びつくような働きかけを心掛けている。	利用者のこれまでの人間関係や社会との関わりについて、家族やケアマネージャーから聞き取り把握している。知人の訪問時には湯茶でもてなし、つながりを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係の情報を共有し、共に暮らしを楽しめるような支援が出来るよう、職員が調整役となっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援をする体制、取り組みに努めている。現段階では対象者は見えなくなりました。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日々の関わりの中で、把握に努めている。	職員が利用者一人ひとりと一対一になる時間を作り、話しをじっくり聴くことで思いの把握に努めている。その内容は申し送りノートで全職員に伝えられ、利用者の意向を共有しながら支援にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面談等で、本人・家族・関係者から十分な情報を収集し、職員全員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前の情報に捉われず、本人の言動・行動からの把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者の視点にたって、本人主体の暮らしを反映した計画になるよう、職員全員で意見交換をしている。	現場職員がミーティングで意見を出し合い一つひとつのサービスを評価し、ケアマネージャーがまとめて見直しにつなげている。そして作成したケアプランをミーティングでチェックし説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付きや入所者の変化等、小さなことでも記録に残し、職員全員で共有し、ケアに活かせるよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望に沿って、必要な支援を柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族の希望を汲み取り、出来る限りの支援を行っている。地域の方には、外出支援のボランティアへの協力を呼び掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の同意と納得の上で、事業者の協力医をかかりつけ医とされている。また、通院は状況に応じて家族の協力を得るよう働きかけている。	2週間に1回事業所協力医の往診を支援するほか、利用者・家族の希望する医療機関受診も家族と協力し適切な医療が受けられる様支援している。また訪問歯科による口腔ケアにも力を入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、かかりつけ医との連携を密に入所者の健康管理や医療的な支援を行っている。緊急時には相談・助言等、24時間可能な体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の気持ちを大切にし家族と話し合い、重度や終末期の入所者を支えるように取り組んでいる。	本人、家族との話し合いの中から、終末期を穏やかに過ごせる様、関係機関との連携を含め、職員一丸となって支援に取り組んでいる。契約時、家族からは同意書をもらっている。終末期の方を無事看取り、職員は貴重な経験を自信につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング内で、過去の事例等も踏まえた勉強会を随時行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議に合わせ、自動火災通報装置を設置後の避難訓練も実施。参加者やホーム便りの記事にも訓練毎に地域の協力をお願いをしている。	近隣住民に協力頂ける様、管理者は熱心に働きかけている。訓練時は消防署指導の元、地域住民の参加もあり、夜間を想定した訓練も実施し避難方法を検討している。ｽﾌﾟﾘﾝｸﾗｰの設置も準備中である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重を常に意識しながら、対応するよう職員間での助言等にも気を配っている。	利用者同士のトラブル等には双方の言い分をよく聞き、一人ひとりの誇りを尊重し本質を見極め対応に当たっている。職員間でも常に確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの力に合わせた、自己決定ができるような場面を作るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを尊重し、個別性のある支援が行なえるよう随時話し合い、柔軟な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各部屋に鏡が設置してあり、洋服選びやお化粧を各自で楽しんでみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をお聞きしてメニューに取り入れたり、食材の準備・配膳・下膳・後片付けも一緒に行なっている。	朝のレクリエーションや雑談等の中で食べたい物を察知しﾒﾆｭｰに取り入れている。職員は介助が必要な利用者と共に食事を楽しんでおり、食前には嚥下体操を取り入れ食事の大切さに注意を払っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の機能に合わせて食事形態を変えている。食事・水分の摂取量を記録し、摂取量が不足な方には口当たりのよい物で十分に補えるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の指導の元に、個々に合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は時間や習慣を把握し、トイレ誘導している。失敗やおむつの使用を減らすよう、随時検討・実践している。	可能な限りトイレでの排泄を心がけている。居室に戻る前にさりげなく声かけし、”用を足す習慣”を活かし、自立に向けた支援としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や水分量に気を配り、予防に取り組んでいる。便秘薬を服用している方は、食事・水分摂取状況、排便の状況等を見ながら、服薬量を毎日検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	男性職員の対応に抵抗のある方には、女性職員が対応にあたっている。	週二日を入浴日としている。浮き輪などを使い浴槽にゆったり浸かれるよう事業所独自で工夫したり、入浴剤を入れるなど、湯上りの満足感が得られる様支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の疲れ具合に合わせて、個別に休息を取り入れている。その際には、夜間の睡眠に影響しないように、声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み始めの際には、連絡ノートに薬の情報を記入し、全職員に周知出来るようにしている。同時に状態観察を行い、変化が見られた時には速やかな対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活を共にする中で、個々に合った楽しみや役割を見い出し、「その人らしい生き方」が出来るような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族の希望に沿った外出支援が出来るように努めている。殆どの方が、屋外での歩行が不安定な為、マンツーマンで同行している。	ドライブや買い物・散歩等支援の努力はみられるが、一人ひとりの利用者について、希望に沿った外出支援の実施には至っていない。	外出する利用者が固定化する事無く、重度の利用者も外気に当たり気持ちよくいきいき過ごせるよう、個別の配慮工夫を検討されたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時には、本人が支払えるように手渡すようにしている。また、出来る方には、計算しながら買い物が出来るように声掛けを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話が出来るように環境を作り、会話が他の入所者に聞こえないように、電話使用の個別の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの彼岸団子を供えたり、季節の花で生け花をしたりして、季節感を採り入れる工夫をしている。	玄関先には草花が植えられ軒下には利用者が皮むきした干し柿が吊り下がり、家庭的な佇まいとなっている。住宅改修型事業所だが手摺り・床もバリアフリーに安全に過ごせる様工夫され、愛犬を飼う等気分転換が図れる様取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方と無理なく過ごせるように、居間や食堂の席を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地の良い暮らしが出来るよう、馴染みの物を置き個々に応じた工夫をしている。	持ち込みの少ない利用者には管理者が古いタンス・道具類を調達し、落ち着いて過ごしやすい居室となる様配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者の状態に合わせて、居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮が出来るように随時検討している。		